

彝語の特徴

彝語は多音節言語である日本語と異なり、単音節言語です。単音節言語で知られている言語には他に漢語（中国語）があります。そして彝語が声調言語であることも漢語と同じです。このような彝語はやはり方言によって発音が大きく異なります。北部方言の声調は高音、中音、低音の3トーンと変調の高中音の合計4トーンがあり、母音は10、子音は45もあります。母音では喉をしめて発声する緊喉音という音が2つあり、とても特徴的です。子音には濁音、無気音、有気音、nで始まる音があります。また漢語（中国語）と同じような巻舌音があり、さらにその巻舌音の濁音もあるなど、非常に複雑です。漢語（中国語）とは異なる発音としてnやngが終わる音がないなども彝語の特徴であると言えます。

彝語の文法的を見てみると、動詞を使う文はSOVで表現します。これは日本語と同じ語順です。例えば「私はご飯を食べた」は「𑄎𑄎𑄎𑄎𑄎 (Nga li zza zze ox)」となります。「𑄎𑄎 (Nga li)」が「私は」を、「𑄎𑄎 (zza)」が「ご飯」を、「𑄎𑄎 (zze ox)」が「食べた」を意味します。しかし連体修飾語の位置は日本語と異なります。例えば「𑄎𑄎𑄎𑄎𑄎 (Vitgga anuo cyx ggu)」は「この黒い服」という意味ですが、彝語の直訳をするならば「服黒いこの一着」ということとなります。彝語の語彙も方言によって大きく異なります。しかし基本語彙については、少々発音の変化はありますがほぼ同じです。

彝語でのあいさつでは通常「こんにちは」、「さようなら」と直訳できることばはありません。実はこのように「こんにちは」、「さようなら」に当たることばがない言語は多いのです。彝語でのあいさつで面白いものを一つ紹介しましょう。それは家に久しぶりにやって来たお客と主人とのあいさつです。主人がまずお客に対して「𑄎𑄎𑄎𑄎 (Ne gga yotw) ?」と言います。これは「おまえ、道を間違えたのか？」という意味です。それに対して客は「𑄎𑄎𑄎 (Nga ap yot)」と言います。これは「道を間違えたりはしてないよ。」という意味です。久しぶりにやって来た客に道を間違えただろうなどとあいさつするのはなかなかジョークが効いていますね。

ナシ語の連載でも取り上げられていました日本語との共通性の話ですが、これは彝語と日本語との間にもあります。SOVの文法の共通性や格助詞の使用などから、彝語と日本語の類似性が現地の人々によってよく語られます。これは1970年代から1980年代に日本の一部で流行した「日本文化雲南源流論」から始まったものです。この考え方が現地にフィードバックされて「日本同祖論」として流布し、彝族やナシ族の人たちが経済発展した日本に親近感を覚えた上で、言語の類似性を語るという構造を作り出しました。では彝語と日本語は何か関係性があるのかと言いますと、正直なところ、シナ=チベット語族のチベット=ビルマ諸語の彝語は日本語とは何の関わりもありません。